

JSR 株式会社

2024 年 3 月期第 3 四半期決算説明電話会議 議事録

(2024 年 2 月 5 日開催)

決算補足資料:

https://ssl4.eir-parts.net/doc/4185/ir_material_for_fiscal_ym/149325/00.pdf

P3 全体サマリー :

- ・FY23Q3 実績 : QoQ 大幅な増収増益。SEMI 及び LS の販売拡大が主な要因。SEMI は対前年では依然弱いものの昨年 4Q を底に需要回復が継続。対計画で想定より高い進捗になり DS セグメントはコア営業利益が通期見通しを達成。LS は QoQ で大幅に売上利益とも拡大。IVD の検査キットの拡大による。
- ・今後の見通し : SEMI の回復基調は続くが 4Q は出荷の谷で 3Q 比落ちる見込み。需要の本格回復は来期になる見込み。LS は CDMO の KBI 新工場は順調に稼働拡大見通し。一方バイオテック業界の需要は底打ちも回復は不透明感あり事業への影響等注視していく。今期業績見込みに廃棄損・貸倒引当等の一次要因コストを下期発生見込として折り込んだ。3Q に一部計上済。4Q も計上を見込んでおり精査中。
- ・半導体やバイオテックなど短期的な需要悪化への対策として収益改善策を実施中。中長期のシェア拡大・事業成長への布石そのものは順調に進んでいる。
- ・JIC (産業革新投資機構) グループによる当社株式の公開買付けの開始予定について発表。JICC との戦略的パートナーシップにより、非公開化の上、戦略推進を加速するとともに、半導体材料業界の再編を機動的に推進。国際競争力と各事業の中長期的な成長力の強化を目指す。株主、グローバルなお客様、従業員、パートナー含め全てのステークホルダーにとって最善の選択肢になると期待。
- ・12 月に公開買付の準備状況について情報を更新。現在、中国の競争法に基づく手続きを対応中。公開買付時期は早くとも 2 月月下旬を見込む。3 月末日において、本公開買付が開始されていない場合は、改めて進捗状況を公表する予定。
- ・JICC との戦略的パートナーシップを含め、当社の戦略に何ら変更はなく今後も邁進していく。

P4 決算のポイント : FY23Q3 実績

(YoY コア営業利益) YoY 大幅な減収減益。コア営業利益差異を water fall で分析。

DS : -104 億円の減益。SEMI の数量差が主要因。対前年で-15%の減収。顧客市場であるシリコンウエハーのグローバルの投入面積もほぼ同規模で減少。又 EUV やアジア市場強化の投資を行った。DISP は対前年では LCD パネル市場の回復により増益。エッジコンピューティングはスマホ市場低調の影響で減益。

LS : 昨年対比では主に CDMO にて特殊要因として 3Q 累計で約 60 億円の損失計上。計画に基づくものではあるがコロラド工場の大規模修繕を 1Q 実施。その他在庫評価及び貸倒引当等の損失計上を実施。これらは会計要因に加え需要環境の影響による。その他 CRO はバイオテック業界低調の影響を受け減益。LS では構造改革も推進中。

PLA : 需要回復による増益。

OTH: コスト削減による増益。

(QoQ コア営業利益) QoQ 大幅な増収増益

DS : 増収増益。SEMI が増収増益。EUV は確実に進捗している。DISP は H1 の顧客高稼働に対し 3Q は稼働調整があり売上は減収。コスト減により増益。

LS : IVD の検査キット販売の好調による増益。CDMO で見込の範囲内だが廃棄損・及び引当金の発生。

PLA : 主に数量拡大による増益。

P5 実績 YoY, QoQ

YoY: 3Q 通期実績はコア OP148 億円。対前年-53%の減益。DS、LS で減収減益。

- ・DS は減収減益。半導体サイクルの影響。SEMI で売上高が-15%。
- ・LS は増収減益。売上は CDMO の販売拡大で増収も特殊要因及び CRO の減益影響。
- ・合成樹脂は若干の減収減益。

QoQ : 先に説明通り増収増益。

P6 セグメント別損益 : デジタルソリューション事業

(YoY) 減収減益

104 億円の減益の主要因は SEMI の販売数量減。又既存事業の投資は削減しつつも EUV/MOR 分野の先行投資を実施、又アジア拠点の強化も併せて実行した。これらは計画内での実施。以上により SEMI 事業で減益。DISP は増収増益。EC は減収減益となった。

(QoQ) 増収増益

SEMI の販売増による増収増益。一部販売の前倒しや固定費の発生差異もあり利益は 3Q に集中。

P7 デジタルソリューション事業 : 主要製品売上推移

EUV が YoY で+10%の売上増を達成、全体の半導体需要は低調も、先端 Dram 向け販売が拡大した。MOR も好調に推移した。

P8 セグメント別損益 ライフサイエンス事業

(YoY) 増収減益。

- ・増収は CDMO の販売が継続的に拡大した影響。新工場の売上拡大が貢献した。
- ・減益は CDMO の特殊要因の他、CRO の需要環境の低調により販売が計画未達となり投資増を吸収できず減益。BPM も一部需要環境の悪化の影響を受けた他販売タイミング差による減益。IVD は対前年減収もコスト抑制し増益。

(QoQ) 増収増益

・CDMO は新工場の稼働拡大により増収も特殊要因により減益。CRO は販売は徐々に回復方向により増

収増益。IVD は抗原検査キットの拡大。

P9 セグメント損益 合成樹脂事業

(YoY)減収減益。ほぼフラット。

- ・需要回復途上により販売減も販売価格の改定によるスプレッドの拡大で相殺。

(QoQ)増収増益

- ・販売数量の回復により増益。

P10 業績見通しに関する市場前提

・SEMI 需要の目安となるシリコンウエハインプットは当初は今期-5%程度、ほぼ昨年度フラット程度を想定するも、足元見込は-10%~-15%と大幅に下落すると見込む。FY24 は 2 桁の力強い成長を見込むが本格回復は後半。

・一方先端ロジック分野は AI 向けチップ及び最先端 FAB の立上げが進捗し今期及び来期に向け半導体分野の牽引すると見込む。メモリも先端 DRAM は拡大方向。当社の EUV 及び MOR は販売拡大が見込まれる。一方メモリ全般は需要底打ちも低調な状態が続いている。回復は来期。

・DISP の主要顧客である FPD パネルメーカーの稼働状況は、上期好調も下期に稼働調整となり、年度では当初見込みに対して若干低くなる見通し。来期は稼働が上がっていく見通し。一方 2 月が底打ちで 3 月以降の稼働回復がほぼ見えており来期は安定した回復方向で見込む。

・自動車生産は、半導体不足の解消を受けて回復基調が継続。EV や海外市場が回復を牽引する。

・バイオ医薬品市場は、全般には堅調で二けた近い成長が継続。一方バイオテック市場への投資は FY22 大幅に落ち込んだ。FY23 も落ち幅は減少も弱い状況。徐々に回復が見えてきている状況。

P11 実績 vsFY23 通期業績予想（変更なし）

- ・今回見込の修正はなし。

P12 ライフサイエンス事業（CDMO）KBI 新工場 生産計画の進捗

・棒グラフは各 Q に開始された生産バッチ数を表す、折れ線は生産能力。

・現有の KBI の生産能力を大幅に増加させるノースカロライナ新工場が昨年度後半より商業生産を開始。前 Q に続き Q3 も稼働は好調。Q4 も生産を拡大する見込。年度後半に向けフル稼働を見込み。需要は堅調であり来期も好調な稼働を見込む。

・KBI では今期リストラクチャリングを実行している。コスト構造の見直しに加え不良資産の圧縮、事業構造改革も実施している。又、収益改善プロジェクトにより、追加コストなしでの生産キャパシティの拡大に加え、将来的なトップラインの拡大や利益向上策について検討を進めている状況。

・今期も KBI 全体で YoY+20%の増収を実現。力強い成長を持続しつつ CF 創出力を大きく改善させるべく全力で取り組んでいる。

【表記注記】

デジタルソリューション	: DS
半導体材料事業	: SEMI
ディスプレイ材料事業	: DISP
エッジコンピューティング	: EC
ライフサイエンス	: LS
合成樹脂	: PLA

以上